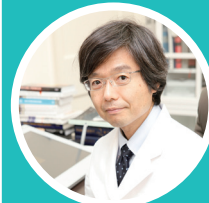


なぜメトホルミンを使わないのだ

糖尿病の薬剤治療について

糖尿病の新しい薬が最近話題になっている。しかしあふれる情報の中で患者さん達も混乱している。約40年間多くの糖尿病患者を診てこられた『山本診療所』の山本哲郎先生は新薬よりも約100年前に創られたメトホルミンが最も重要な薬であると確信されている。



今回お話を
お伺いしたのは

医療法人 山本診療所
山本診療所 YAMAMOTO CLINIC

山本 哲郎 先生

Doctor's Profile

九大医学部卒業。2011年博多駅前に山本診療所開業。食事運動と適切な薬剤による日本人に適した糖尿病治療に長年取り組んでいる。

メトホルミンは2型糖尿病の第一選択薬である

「メトホルミン(メトグルコ®)は1922年に欧州でガレガソウという薬用植物から創られ、約65年前にフランスで2型糖尿病の治療に使われ始めた薬剤です。そして約25年前よりその有効性を示す臨床研究の影響で、欧米では2型糖尿病の第一選択薬として使われています。2型糖尿病の診断がいたら食事運動療法と同時に開始すべき薬剤であるとされており、世界中の人々を救っているノーベル賞に値する薬剤です。ただしインスリン分泌が絶対的に欠乏している1型糖尿病の治療薬はインスリンです。漢方薬の生薬のように多彩な薬理効果があり、肝臓に

働いて余計な糖の産生を抑える作用、インスリンの効きをよくする作用、消化管に働いて糖の吸収を抑える作用、更にはGLP-1の分泌を促し血糖を上げるホルモンであるグルカゴン抑制する作用なども指摘されています。体重に関係なく有効であり、血糖低下作用だけでなく心筋梗塞の発症を抑え、寿命を延ばすとする研究があります。そして何より素晴らしいのは極めて安全な薬であることです。ただし重度腎機能障害の方など服用していけない場合があります。また既に特許は切れており安価です。私も過去約23年間、多くの患者さん達にメトホルミンを中心とした治療を行っておりますが効果安全性共に満足できるものです。」

メトホルミンは「抗老化薬」、「がん予防薬」としても期待できる

「長年メトホルミンを使用してきた医師達がメトホルミンを服用している患者さん達が血糖とは関係なしに元気であるということに気づき、メトホルミンの抗老化作用やがん予防作用が研究されてきました。また新型コロナウイルスに対する有効性も議論されています。現在、抗老化医学では、サーチュイン活性化、M TOR抑制、AMPK活性化、エピゲノム安定化という長寿遺伝子レベルでの抗老化作用が研究されています。素晴らしいことにメトホルミンはこれらすべてに對して作用すると考えられています。更にインスリン/IIGF-1系制御、抗慢性炎症作用、

酸化ストレス抑制、オートファジー促進なども指摘されています。そしてメトホルミンの老化治療薬としての臨床研究が米国で進行中です。私はこの抗老化作用を特に重視して積極的にメトホルミンを処方しております。」

日本ではメトホルミンの処方が中途半端である

「どの視点からも、もし医師自身が2型糖尿病だとしたらまずはメトホルミンを服用するはずですが、しかしながら日本ではこのメトホルミンが必ずしも最初に使われておらず、使用量も少なく中途半端な状況となっています。さまざまな理由が考えられますが私はこの現状を憂う医師の一人です。」

Hospital Data

医療法人 山本診療所 山本診療所 YAMAMOTO CLINIC

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3-9-1
☎092-414-7063
<https://www.fukuoka-tounyou.com/>



WEBはこちら



| 診療日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|-------------|---|---|---------------------|---|---|---|---|
| 9:00~13:00 | ○ | ○ | — | ○ | ○ | ○ | — |
| 15:00~18:30 | ○ | ○ | △ 14:00 18:30 | ○ | ○ | — | — |

休診: 水曜午前、土曜午後、日祝日

●診療科目

糖尿病内科、内科、漢方内科